

資料5

火山活動評価ワーキンググループ活動経過

●平成18年6月12日

火山噴火予知連絡会幹事会において、今後20～30年以内に噴火する可能性がある火山の整理、全ての火山について評価を行うため火山活動評価ワーキンググループの設置を提案し、承認された。

●平成18年11月14日

火山噴火予知連絡会幹事会において、今後の作業予定（以下）を提案し、承認された。

平成18年11月14日
火山活動評価の検討について
<p>1. 目的</p> <p>次の事項を検討するため、火山活動評価検討ワーキンググループ（WG）を立ち上げる。</p> <p>①全国の活火山における今後の噴火等が発生する可能性について、中長期的な観点（今後20～30年以内、50年以内、100年以内に区分）から検討を行い、防災対策が必要となる火山を選定する。</p> <p>②気象庁で作成している活火山の噴火シナリオについて、今後の火山防災対策を進めるうえで適切な内容であるか点検を行う。</p> <p>2. 構成</p> <p>WGの構成メンバーは、石原座長のほか、藤井噴火予知連会長、内閣府・砂防部・気象庁の各委員に加え、各地区の学識経験者からなる合計10名程度を予定している。さらに、必要に応じてその他の学識経験者にも出席を依頼する。</p> <p>3. 作業予定</p> <p>①今年度</p> <p>防災対策が必要な火山の選定と一部火山の噴火シナリオの点検のため、2回程度開催する予定。なお、検討作業に先立ち、全国の火山専門家を対象とした火山活動予想アンケート調査（添付資料）を実施する。</p> <p>②来年度</p> <p>引き続き防災対策が必要な火山の選定を行うとともに、気象庁が作成を終えたものから順次、噴火シナリオの点検を行う。</p>

●2007年1月15日

第1回火山活動評価ワーキング会合開催（本号資料6参照）

- 議題
- 1) 検討内容とスケジュールについて
 - 2) 中長期的な火山活動評価の方法について
 - 3) 噴火シナリオの点検について
 - 4) 樽前山の噴火シナリオについて
 - 5) 浅間山の噴火シナリオについて

●2月16日

第106回火山噴火予知連絡会にて検討状況を報告。